2025 年度事業報告

（2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日）

新材料及びこれに関連する科学技術分野における**公益事業 1**（研究助成、国際交流助成、国際シンポジウム助成の各事業）並びに**公益事業 2**（科学技術啓蒙助成事業）について、計画通り実施した。

公益事業 1

1. 研究助成

1-1.研究助成

（1）2025 年度（第 37 回）研究助成の実施

2025 年 3 月の第 84 回（公益認定後第 37 回）理事会で承認・決定した 13 名に助成金を贈呈した。各研究テーマへの助成額は 1 件 2,000 千円で、総額 26,000 千円。応募総数は 37 件であった。

（2）2026 年度（第 38 回）研究助成の公募

公募期間は 2025 年 8 月 1 日から 9 月 19 日、応募総数は 58 件であった。選考委員による書類審査を経て、2025 年 11 月 27 日の選考委員会において候補者 15 名を選出した。2026 年 3 月の第 87 回（公益認定後第 40 回）理事会で承認・決定した。

1-2.スタートアップ助成

（1）2025 年度（第 5 回）スタートアップ助成の実施

2025 年 3 月の第 84 回（公益認定後第 37 回）理事会で承認・決定した 15 名に助成金を贈呈した。各研究テーマへの助成額は 1 件 1,000 千円で、総額 15,000 千円。応募総数は 50 件であった。

（2）2026 年度（第 6 回）スタートアップ助成の公募

公募期間は 2025 年 8 月 1 日から 9 月 19 日、応募総数は 44 件であった。選考委員による書類審査を経て、2025 年 11 月 27 日の選考委員会において候補者 15 名を選出した。2026 年 3 月の第 87 回（公益認定後第 40 回）理事会で承認・決定した。

1-3.発展研究助成

（1）2025 年度（第 6 回）発展研究助成の実施

2025 年 3 月の第 84 回（公益認定後第 37 回）理事会で承認・決定した 2 名に助成金を贈呈した。各研究テーマへの助成額は 1 件 5,000 千円で、総額 10,000 千円。

（2）2026 年度（第 7 回）発展研究助成の選考

2025 年 11 月 27 日の選考委員会において、2024 年度研究助成の終了者（13 名）を対象として、候補者 2 名を選考した。2026 年 3 月の第 87 回（公益認定後第 40 回）理事会で承認・決定した。

2. 国際交流助成

（1）2025 年度（第 38 回）国際交流助成の実施

選考委員による審査選考にて選出し、2025 年 5 月の第 85 回（公益認定後第 38 回）理事会で、12 名への助成金の贈呈が承認・決定した。助成額は最高 450 千円で、総額 4,500 千円。うち 1 件は助成金残額 134,375 円の返金となり、総額 4,365,625 円を贈呈した。

（2）2026 年度（第 39 回）国際交流助成の公募

公募期間は 2026 年 2 月 1 日から 3 月 19 日、応募件数は 20 件であった。

3. 国際シンポジウム助成

（1）2025 年度（第 36 回）国際シンポジウム助成の実施

2025 年 3 月の第 84 回（公益認定後第 37 回）理事会で承認・決定した 8 件に助成金を贈呈した。助成額は最高 300 千円、総額 2,400 千円。

（2）2026 年度（第 37 回）国際シンポジウム助成の公募

公募期間は 2025 年 8 月 1 日から 9 月 19 日、応募総数は 10 件であった。選考委員による書類審査を経て、2025 年 11 月 27 日の選考委員会において 10 件を候補として選出した。2026 年 3 月の第 87 回（公益認定後第 40 回）理事会で承認・決定した。

4. 研究成果報告会

2024 年度研究助成金受領者、2024 年度スタートアップ助成金受領者および 2023 年度発展研究助成金受領者による第 28 回研究成果報告会を 2025 年 11 月 27 日～28 日、（株）トクヤマ・徳山製造所にて開催した。

公益事業 2

1. おもしろワクワク化学の世界展への助成（2025 年度（第 33 回））

2025 年 3 月の第 84 回（公益認定後第 37 回）理事会で承認・決定した日本化学会中国四国支部主催の「おもしろワクワク化学の世界’25 岡山化学展」（2025 年 8 月 8 日～10 日/岡山市）に助成金を贈呈した。助成額は 2,000 千円。

2. 少年少女発明クラブへの助成（2025 年度（第 19 回））

山口県内 7 つの少年少女発明クラブに助成金を贈呈した。助成額は 1 クラブ 50 千円、総額 350 千円。

法人の運営体制の充実を図るための取り組み

当財団では、助成事業の運営強化を目的として、助成業務システムの導入を実施した。本システムの導入により、応募者による申請手続の簡便化を図るとともに、紙媒体による郵送および保管の削減を進めていく方針である。

初年度である 2025 年度においては、応募者と事務局間のやり取り機能を中心に運用を開始し、併せて紙媒体による郵送を併用することで、安全性の検証を行いながら実施した。

今後は、システム運用に係る習熟度の向上を図り、円滑な本格運用の実現に向けて引き続き取り組んでいく。

2025 年度（第 37 回） 研究助成

（13 件、総額 26,000 千円）

（五十音順）

No	氏名	年齢	職位	所属（申請時）	研究題目	助成額（千円）
1	小阪田泰子	43	准教授	大阪大学 産業科学研究所 第三研究部門	高活性な有機高分子光触媒のメカノケミカル合成	2,000
2	川谷諒	32	助教	徳島大学 大学院社会産業理工学研究部 理工学域 応用化学系	フォトレジストを志向した主鎖分解性アクリルポリマーの開発	2,000
3	小嶋隆幸	39	助教（テニュアトラック）	信州大学 繊維学部 化学・材料学科	ホイスラー合金触媒中のSnによる炭素鎖の切断・結合メカニズムの解明	2,000
4	後藤真人	35	助教	京都大学 化学研究所 附属元素科学国際研究センター	異常高原子価イオンの価数不安定性を生かした巨大マルチ熱量効果材料の開拓	2,000
5	小林裕一郎	42	助教	大阪大学 大学院理学研究科 高分子科学専攻	硫黄ポリマーにおける逐次重合法の確立と次世代高分子材料の創製	2,000
6	崔允寛	41	准教授	島根大学 材料エネルギー学部 材料エネルギー学科	カリウムカルボアニオンを利用したアリルオキシシランのレトロ-1，4-Brook転位反応の開発	2,000
7	迫野奈緒美	42	准教授	富山高等専門学校 物質化学工学科	ハイエントロピー合金の合成を目指した多元素金属ナノ粒子の新規合成法の開発	2,000
8	鈴木康介	42	准教授	東京大学 大学院工学系研究科 応用化学専攻	優れた活性と耐久性を両立する無機-有機複合光触媒の開発	2,000
9	谷岡卓	34	助教	富山大学 学術研究部 薬学・和漢系	『HAT型光治療』の開拓と、ライソゾーム病の新規治療法への展開	2,000
10	堂本悠也	42	准教授	群馬大学 大学院理工学府 分子科学部門	銀クラスターの超分子配位チューニングによる温度応答性発光材料の開発	2,000
11	長谷川拓哉	35	講師	東北大学 多元物質科学研究所 環境無機材料化学研究分野	溶融塩アニーリングプロセスによる高感度非接触型蛍光温度計用ジルコニア蛍光体の蛍光効率の改善	2,000
12	村井健一	44	教授	和歌山県立医科大学 薬学部 薬学科	シリルジアゾメタン独自調製法を基盤とする多様なシラサイクル構築法の開発	2,000
13	弓場英司	42	准教授	大阪公立大学 大学院工学研究科 化学バイオ工学分野	炎症細胞標的化型ヒアルロン酸誘導体による炎症疾患治療システムの開発	2,000

2025 年度（第 5 回） スタートアップ助成

（15 件、総額 15,000 千円）

（五十音順）

No	氏名	年齢	職位	所属（申請時）	研究題目	助成額（千円）
1	明石優志	29	特任助教	熊本大学 産業ナノマテリアル研究所 バイオマテリアル部門	ペロブスカイト型量子ドット材料が示す超高効率発光のメカニズム解明	1,000
2	笠間建吾	31	助教	富山大学 学術研究部 薬学・和漢系	高原子価蒼鉛触媒によるフェノール変換反応	1,000
3	近藤吉史	29	助教	大阪大学 産業科学研究所 先端ハード材料研究分野	ペロブスカイト型酸化物の形態制御と圧電触媒機能	1,000
4	佐伯龍聖	29	助教	九州大学 大学院工学研究院 材料工学部門	電鋳・剥離法により作製された超微結晶組織を有する銅合金薄板の機械的特性評価	1,000
5	酒井求	36	講師	早稲田大学 先進理工学部 応用化学科	有機金属構造体の結晶形態制御手法の開発	1,000
6	坂部将仁	32	助教	東洋大学 理工学部 応用化学科	重い第15族元素カチオン種のLewis酸性を基盤とした有機触媒への応用研究	1,000
7	竹入史隆	36	講師	近畿大学 理工学部 理学科 化学コース	高いイオン導電性と化学安定性を両立するヒドリドイオニクス材料の開発	1,000
8	土肥侑也	36	准教授	山形大学 大学院有機材料システム研究科 有機材料システム専攻	単分散二次元シート状高分子の調製と分子特性評価	1,000
9	久野尚之	30	助教	広島大学 大学院先進理工系科学研究科 先進理工系科学専攻	ホスト−ゲスト錯体が形成する結び目構造を基盤とした新奇ポリマー材料の創出	1,000
10	増田涼介	30	助教	学習院大学 理学部 化学科	新規典型元素触媒の開発と炭素-炭素結合形成反応への応用	1,000
11	眞邉潤	28	助教	広島大学 大学院先進理工系科学研究科 先進理工系科学専攻	籠状分子内での分子運動を利用した強誘電性の探査	1,000
12	安川直樹	32	助教	名古屋工業大学 大学院工学研究科 工学専攻	新しいホウ素官能基の提唱；クリーンエネルギーを利用した革新的導入法の開発と機能評価	1,000
13	山岡賢司	29	特任助教	大阪大学 大学院理学研究科 高分子科学専攻	界面拡散制御に基づく自己修復性高分子の修復速度の制御	1,000
14	李 恒	29	助教	中央大学 理工学部 電気電子情報通信工学科	カーボンナノチューブ膜を用いた光熱電変換におけるマテリアルズインフォマティクスへの新展開	1,000
15	LI FENG	36	助教	北海道大学 大学院工学研究院 応用化学部門	セルロース由来原料を用いた新規機能性ポリエーテルの合成開発	1,000

2025 年度（第 6 回） 発展研究助成

（2 件、総額 10,000 千円）

（五十音順）

No	氏名	年齢	職位	所属（申請時）	研究題目	助成額（千円）
1	河野慎一郎	46	講師	名古屋大学 大学院理学研究科	大環状化合物の孤立空間を利用した多孔性液晶の機能開拓	5,000
2	山科雅裕	36	助教	東京科学大学 理学院	有機分子の固相自己組織化に基づくキラル光機能材料の創成	5,000

2025 年度（第 38 回）国際交流助成

（12 件 4,365 千円）

（五十音順）

No	氏名	年齢	職位	所属（申請時）	会議名（機関・場所）	研究題目	助成額（千円）
1	牛丸理一郎	36	准教授	九州大学 高等研究院	第1回日豪生合成セミナー (2025/08/29-2025/08/29)、シドニー[オーストラリア]	海洋生物由来生体触媒材料の開発と応用	350
2	桶谷龍成	33	助教	大阪大学 大学院基礎工学研究科	第26回有機固体化学国際会議（ICCOSS 2025）(2025/07/13-2025/07/18)、カンクン[メキシコ]	単結晶ー単結晶構造転移に伴う新奇キラル対称性の破れ	450
3	Gao Tianle	27	特任助教	北海道大学 大学院工学研究院	環太平洋国際化学会議 2025(Pacifichem 2025) (2025/12/15-2025/12/20)、ホノルル[アメリカ・ハワイ]	モノマー配列制御開環共重合：ポリ（エステル-アミドエステル）の精密合成	350
4	小鯖匠	30	助教	東京科学大学 物質理工学院	ヨーロッパ腐食連合年次講演大会 2025（EUROCORR 2025）(2025/09/07-2025/09/11)、スタヴァンゲル[ノルウェー]	AA5083合金のAl6(Fe，Mn)粒子起点の腐食:Mg2Si粒子溶解の影響	450
5	清水大貴	33	助教	京都大学 大学院工学研究科	環太平洋国際化学会議 2025(Pacifichem 2025) (2025/12/15-2025/12/20)、ホノルル[アメリカ・ハワイ]	π 共役系における交換相互作用の制御に基づく機能開拓	350
6	中安祐太	34	助教	東北大学 学際科学フロンティア研究所	第14回超臨界流体に関する国際シンポジウム-第9回国際ソルボサーマル・ハイドロサーマル協会会議（ISSF-ISHA 2025）(2025/06/15-2025/06/20)、バ	全有機電池に資する超臨界CO_2を用いたキノン含浸多孔質炭素の構造解析	250
7	仲谷学	34	助教	城西大学 理学部	環太平洋国際化学会議 2025（Pacifichem 2025）(2025/12/15-2025/12/20)、ホノルル[アメリカ・ハワイ]	二酸化炭素に応答する分子性スピン変換材料の開発	350
8	久富隆史	42	教授	信州大学 アクア・リジェネレーション機構	第12回先端技術材料に関する国際会議（ICMAT 2025）(2025/06/30-2025/07/04)、サンテック[シンガポール]	ソーラー水素製造用ナローバンドギャップGaN:ZnO固溶体光触媒	250
9	山口博則	42	准教授	大阪公立大学 理学研究科	第19回分子磁性国際会議（ICMM）(2025/10/27-2025/10/31)、ボルドー[フランス]	近藤ネックレスの実現と磁場スイッチング機能の発現	450
10	山口実奈	29	助教	東北大学 環境科学研究科	第21回固体と液体の拡散に関する国際会議（DSL2025）(2025/06/23-2025/06/27)、ナポリ[イタリア]	固体酸化物形燃料電池の電解質応力にNiの酸化還元が与える影響	450
11	山本耕介	37	助教	長崎大学 大学院医歯薬学総合研究科	環太平洋国際化学会議 2025（Pacifichem 2025）(2025/12/15-2025/12/20)、ホノルル[アメリカ・ハワイ]	アミノジオールの銅触媒不斉非対称化を鍵とする光学活性アジリジンの合成	350
12	山本俊介	40	准教授	京都大学 工学研究科	nanoGe Materials for Sustainable Development Conference（MATSUS Fall 25）(2025/10/20-2025/10/24)、バレンシア[スペイン]	有機電子イオン混合伝導体のオペランド分光	450

助成金余剰分の返却が1件 134,375円

2025 年度（第 36 回）国際シンポジウム助成

1．分子量子力学 2025

（ Molecular Quantum Mechanics Conferences 2025（MQM2025） ）

助　成　額　300 千円
主 催 団 体　MQM2025 実行委員会
開 催 時 期　2025 年 5 月 23 日～5 月 28 日
開 催 場 所　京都テルサ（京都市）
規　　模　参加者 228 名（国内 132 名、海外 96 名）
目的と成果　MQM は 1989 年以来、量子化学分野の研究者が集い、互いの研究進捗を報告し交流する場として概ね 3 年ごとに開催されてきました。アジア地区初めての開催となった MQM2025 には約 20 カ国から研究者や大学院生が参加され、皆様から大変盛況であったと高い評価を頂きました。量子化学は我が国が伝統的に「強い」分野です。国際的プレゼンスをさらに高め、大きなインパクトを与える研究を生み出し続けていく上で、MQM2025 は意義深い機会となったと確信しています。

2. 第 1 回量子コンピューターと量子センサーを指向した分子スピン量子ビットに関する国際会議（ 1st International Conference on Molecular Spin Qubits Toward Quantum Computer and Sensors（ICMSQ2025））

助　成　額　300 千円
主 催 団 体　ICMSQ2025 実行委員会
開 催 時 期　2025 年 6 月 7 日～6 月 10 日
開 催 場 所　東北大学金属材料研究所講堂（仙台市）
規　　模　参加者 108 名（国内 73 名、海外 35 名）
目的と成果　本国際会議(ICMSQ2025)では新しい量子ビットのターゲットとして分子スピンキュービットに焦点を当てた。（１）高温で作動する分子スピンキュービットを作る、（２）スピン-格子緩和時間(T1)とスピン-スピン緩和時間（T2）を長くする、（３）EST-STM を用いての動作、（４）新しい分子スピンキュービットの化合物開発、などの議論を行った。その結果、室温で作動する MOF-スピンキュービットや有機ラジカルキュービットなど、新しい化合物の紹介などがあった。その結果、実り多い国際会議であった。

（8 件 2,400 千円）

3. 第 9 回レーザ先端材料加工国際会議
（ The 9th International Congress on Laser Advanced Materials Processing（LAMP2025））

助　成　額　300 千円
主 催 団 体　一般社団法人レーザ加工学会
開 催 時 期　2025 年 6 月 10 日～13 日
開 催 場 所　シンフォニアテクノロジー響ホール伊勢（伊勢市）
規　　模　参加者 389 名（国内 205 名、海外 184 名）

目的と成果　　本シンポジウムは，マイクロ加工を中心とした LPM2025(The 26th International Symposium on Laser Precision Microfabrication)およびマクロ加工を中心とした HPL2025(The 9th International Symposium on High Power Laser Processing)の 2 部門で構成され，4 パラレルセッションと中 2 日昼食時のポスターセッションにて開催された．3 件の基調講演及び 25 件の招待講演を核として，液中レーザ加工，透明材料の超短パルスレーザ加工の 2 つのスペシャルセッションを含む 50 のセッションが組まれ，総数 296 件の口頭・ポスター発表が行われた．参加者は 22 ヵ国から 389 名，うち海外からの参加者は 184 名であり，当該分野における世界の研究者との有益な議論の場となった．

4．第 26 回非接触型原子間力顕微鏡に関する国際会議（ The 26th International Conference on Non-contact Atomic Force Microscopy（NC-AFM2025））

助　成　額　300 千円
主 催 団 体　NC-AFM2025 実行委員会
開 催 時 期　2025 年 8 月 3 日～8 日
開 催 場 所　オーバード・ホール（富山市）
規　　模　参加者 191 名（国内 81 名、海外 110 名）
目的と成果　　本国際会議は、非接触型原子間力顕微鏡（NC-AFM）や関連技術に焦点を当て、理論と実験の両面から幅広く議論・情報交換を行う場として開催されました。参加者は昨年度の 100 名強からから大幅に増加し 191 人となりました。54 件の口頭発表、7 件のサテライトワークショップ、さらに 80 件のポスター発表が行われ、その全てで活発な議論が行われました。特に、参加者のうち約四分の一は大学院生であり、発表や議論を行う機会を提供できたことは大変有意義でした。

5. 第 17 回非晶質固体の物理に関する国際会議
（17th International Conference on the Physics of Non-CrystallineSolids（PNCS17））

助　成　額　300 千円
主 催 団 体　第 17 回非晶質固体の物理に関する国際会議実行委員会
開 催 時 期　2025 年 8 月 10 日～13 日
開 催 場 所　つくば国際会議場（つくば市）
規　　模　参加者 224 名（国内 139 名、海外 85 名）
目的と成果　PNCS は、非晶質固体の物理に関する国際会議である。ガラスに代表される非晶質固体の構造解析は、放射光 X 線や中性子といった回折実験、NMR やラマン、赤外といった分光実験および計算機実験が主要なツールとして用いられており、ここ最近は欧米で開催されることが多かった。今回、37 年ぶりに日本で PNCS17 が開催された。本会議ではプレナリー、オーラル、ポスターの 3 つのセッションを設け、活発な議論が行われた。また、若手研究者ポスター賞を設けたところ、3 人の受賞者は日本および韓国の大学の学生であった。

6. 第 16 回有機金属・超伝導体・強磁性体に関する国際会議
（ International Symposium on Crystalline Organic Metals, Superconductors and Magnets （ISCOM））

助　成　額　300 千円
主 催 団 体　有機金属・超伝導体・強磁性体に関する国際会議組織委員会
開 催 時 期　2025 年 10 月 1 日～6 日
開 催 場 所　ロワジールホテル豊橋（豊橋市）
規　　模　参加者 168 名（国内 128 名、海外 40 名）
目的と成果　本会議は分子性伝導体・超伝導体・磁性体をはじめ、多様な分子材料の合成、物性、新規現象の実験と理論、さらに応用研究までを幅広く議論する国際会議である。世界各国の研究者が集い、新しい方向性や協力関係を生み出す場として機能してきた。今回の開催では基調・招待・チュートリアル講演、72 件の口頭発表、および 84 件のポスター発表が行われ、分野横断で最新成果が共有された。さらに若手研究者が海外研究者と直接議論する貴重な機会となり、国際交流と人材育成の観点でも大きな意義を持つ会議となった。

7. 固体化学国際シンポジウム 2025
(International Symposium on Solid-State Chemistry 2025（ISSSC2025)）

助　成　額　300 千円
主 催 団 体　公益社団法人応用物理学会
開 催 時 期　2025 年 3 月 2 日～6 日
開 催 場 所　中部大学（春日井市）
規　　模　参加者 381 名（国内 234 名、海外 147 名）
目的と成果　固体化学分野の国際会議 ISSSC2025 を島根県松江市で開催した。15 の国・地域から 231 名が参加し、世界的研究者 32 名による招待講演と 186 件のポスター発表を通じて、基礎から応用まで固体化学に関する幅広い最新知見を共有した。出雲の伝統文化「たたら製鉄」の体験など、文化と科学の融合による独創的プログラムを実施した。また、20 件の若手表彰により次世代育成にも貢献した。これらによって、日本を中核とするアジア・欧米の国際研究ネットワーク強化を実現した。

8. 第 18 回先進プラズマ科学と窒化物及びナノ材料への応用に関する国際シンポジウム／第 19 回プラズマナノ科学技術国際会議
(18^{th} International Symposium on Advanced Plasma Science and its Applications for Nitrides and Nanomaterials, 19^{th} International Conference on Plasma-Nano Technology & Science（ISPlasma2026/ IC-PLANTS2026)）

助　成　額　300 千円
主 催 団 体　公益社団法人応用物理学会
開 催 時 期　2026 年 3 月 2 日～6 日
開 催 場 所　名城大学（名古屋市）
規　　模　参加者 381 名（国内 216 名、海外 165 名）
目的と成果　飯島澄男名城大学終身教授によるプレナリー講演をはじめ、プラズマ、ワイドギャップ半導体、ナノ材料、バイオ分野を代表する講師陣による、各分野の第一線研究者による招待講演が行われた。さらに、一般口頭講演およびポスター講演を通じて、最新の研究成果が幅広く報告され、専門分野の枠を超えた活発な議論と意見交換が展開された。これにより、新たな研究課題の創出や共同研究の萌芽が生まれ、分野横断的な連携が一層深化した。次回も ISPlasma2027/IC-PLANTS2027 を名古屋大学で開催する。

2025 年度（第 33 回）科学技術啓蒙助成

事業名称	おもしろワクワク化学の世界 ’25 岡山化学展
助成額	2,000 千円
主催	公益社団法人 日本化学会中国四国支部
共催	公益財団法人 徳山科学技術振興財団
協賛	イヌイ株式会社、オムロン株式会社、黒崎播磨株式会社、シーピー化成株式会社、 JFE フェライト株式会社、品川リフラクトリーズ株式会社、新青山株式会社、株式会社トクヤマ、戸田工業株式会社、萩原工業株式会社
後援	岡山県教育委員会、岡山市教育委員会、岡山大学、岡山理科大学、岡山地区化学工学懇話会、山陽新聞社、NHK 岡山放送局、RSK 山陽放送、OHK 岡山放送、TSC テレビせとうち、RNC 西日本放送、KSB 瀬戸内海放送
大会委員長	犬丸 啓（広島大学 教授、2025 年度日本化学会中国四国支部長）
実行委員長	大久保貴広（岡山大学 教授）
実行委員	岡山大学、岡山理科大学
開催期間	2025 年 8 月 8 日（金）～ 10 日（日） 3 日間
場所	岡山タカシマヤ 8 階 催会場
展示ブース	実験ブース数 14（大学 10、企業 4）
参加対象者	小中学校の児童生徒およびその保護者（来場者数：2,086 名）
事業概要	かつて世界でも屈指の科学技術立国であった我が国の状況は一変し、研究の量・質共に衰退の一途を辿っている。日本にとって科学技術は国力に直結する重要な位置を占めており、将来を担う子どもたちが世界の科学技術を先導できるような施策が欠かせない。本事業では、子どもたちが学校や家庭で触れることが困難な化学実験を体験してもらい、理科や化学に興味をもってもらうと共に、将来、一人でも多くの子どもが科学者や技術者を目指すきっかけとなる企画を実施する。対象は就学前の子どもから高校生、そして一般の方まで幅広く想定し、それぞれの年代に 即した解説や説明を心掛け、化学の面白さを伝えるイベントにする。

事業名称	少年少女発明クラブ
助成額	1 クラブ 50 千円（7 クラブ合計 350 千円）
主催	（一社）山口県発明協会、山口県内市町村教育委員会
共催	山口県内市町村、同公共施設、同商工会議所 他
運営組織	各クラブの企画運営委員会
活動期間	2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日 （1 年間）
場所	山口県内公共施設
参加対象者	小中学生及びその保護者
事業概要	少年少女発明クラブは、現在、全国に 214 のクラブがあり、約 11,000 名の子どもたちが、約 2,800 名の指導員のもと科学的な原理に基づく工作実習、創作活動等の体験学習を行っている。山口県では現在 7 クラブ（下関市、山口

市、宇部市、防府市、周南市、柳井市、田布施町）が活動している。本活動は、子どもたちに地域の特徴を生かした創意工夫に基づく創作活動の場を提供し、作品製作や実験を通じて、アイデアを形にする能力と技術を持った創造性豊かな人間形成に寄与することを目的として活動し、有意義な成果が得られている。